

第1回
(2014.10.1)

『大学図書館の機能と研究活動』

引原隆士教授(工学研究科・図書館機構長)

第1回：講義

- ・ 場 所：学術情報メディアセンター南館 203
- ・ 出席者：受講者 28 名 演習補助者 8 名
- ・ 配布物：PPT 講義資料(A4 両面 3 枚)、授業日程・講義構成(A4 両面 1 枚)、
- ・ 演習補助者紹介資料(A4 片面 1 枚)、アンケート(A4 片面 1 枚)

授業の目的(附属図書館 北村准教授より)

- ・ この授業の目的は、図書館をはじめ文献・学術情報を検索し、プレゼンやレポートで発表できるまでのスキルを身につけること。

*** 講義:「学習・研究と図書館 —学術情報へのアプローチ—」***

はじめに

- ・ 学術情報を使う基本は、情報やこれまで蓄積されてきた資料をどれほど必要とするのか、過去の成果をどのように尊重し自分のものとするかを、理解することである。
- ・ 剽窃や改竄の問題を学ぶことも、この授業の重要なポイント。

質問1 貴方にとって図書館とはどういう場？あるいはなぜ大学に図書館があるのか？

- ・ 図書館は自学自習の場、コミュニケーションの場、休息の場など多様な機能を持ちうる。

図書館の成り立ち

- ・ 現状に至る歴史を見なければ、将来あるべき方向を考えることができず、発展もない。
- ・ ヨーロッパ：一説では、教義を次の世代に伝える教会の資料室(どの教義が正しいかを検証する神学のための資料の場)が図書館の元であり、神学校とともに成立してきたという。
- ・ 中国の例：敦煌の石窟寺院に木簡資料を保管。最初は敦煌にしかなかった資料が、活版印刷によって他の場所にもコピーとして置けるようになり、図書室ができるようになった。
- ・ 日本：権力者が貴族等の個人に、資料の保存と同時に自らのよい行為を記録し継承させた。その写本が他の場所にも置かれるようになり、江戸時代の藩校などで用いられた。
- ・ 問題は、コピーが作成されると、どれが原本か分からなくなる。
- ・ 現在の図書館は、かつての「静寂、カビ臭い、怖い司書」といったイメージから変化しており、保存・継承の場から、ラーニングコモンズなどの学習の場へと変化しつつある。

京都大学のポリシーと検証の重要性

- ・ どの分野でも、新しい領域はしばらくのち必ず検証が必要であり、このことは学術情報を扱う時にも重要なポイント。検証を経ず予想で進んでいる傾向があるのが **Global Warming**。
- ・ 京都大学のポリシーは「自重自敬」「自学自習」だが、「自分の考えがどれだけ正しいか？」「自分の考えを推し進めることが妥当か否か？」をどのように調べるかが重要。必ず裏付けが必要であり、そのためには情報を集めて精査する必要がある。自分の考えを大学の環境でいかに確立していくかが問われている。そのためには対話を前提とし、ゼロからではなく、元となる資料や考え方をベースにして議論を行う必要がある。

世界の図書館、大学図書館の今(ラーニング コモンズ)

- ・ 海外の図書館の例：図書館の機能を分析してデザインに落とし込み、建築。
- ・ 図書館のイメージをどのようにして高めるか？機能のためにデザインがある。
- ・ 大学図書館は、研究や教育のサポート側として、自分の考えや学理が正しいかを検証する場となる必要がある。人が集まって議論し、資料に基づいて位置づけることの繰り返し。
- ・ それが行われなかった結果発生したのが、論文の剽窃の問題。
- ・ ラーニングコモンズは、アクティブラーニングの場の一つ。また、反転講義の実験の場。そのための場所は本の移動等で確保。また電子化が重要な要素。従来は原本として紙の情報源が重要だったが、現在紙と電子化された資料が同じであることが保証されてきている。

質問2 皆さんは使う情報の真贋をどうやって決定しますか？

- ・ 「使う情報の真贋をどう決めるか？」「導いた結果の妥当性をどう保障するか？」が学問の基本。検証せずそのままコピーする行為には判断がなく、判断がなければ研究ではない。
- ・ Wikipedia は、時間をかけて構築・検証する辞書と異なり、短時間で多数の人で構築する。
- ・ 自ら検証することが重要。その過程を理解するのが大学の講義であり、リテラシー教育。
- ・ 一つの学理に従って、一つの文献が主張しているだけでは、正しいとは言えない。
- ・ 学内は多数の図書館・室に分かれているが、真贋を検証するため、図書館機構は、遠隔地でも皆さんが読みたい時に資料を手に入れることができるシステムを作っている。

質問3 みなさんの学術情報利用のスキルは？

- ・ 例えば、ゲームでマニュアルを読まずに始めると限界が来る。実験を繰り返し失敗して弱さを補強。最初からそうできない人はマニュアルを読むが、能力が無いうちに強い弱いかわからない武器を手に入れてしまう。学術でも、自分の考えを相手と戦わせ積み上げていくと良いが、その過程を経ず、自分の能力を把握しないまま進んでしまうことは危険。

- ・ 検索しても肝心の資料が見つけれられない時は、図書館のカウンターや先輩に聞き、自分なりの蓄積を得なければならない。それが自分なりの武器を持つための1つのプロセス。

図書館と研究活動

- ・ 最近特に利用されるのは電子ジャーナル、データベース、誰でも使えるオープンアクセスアーカイブや、大学が資料を電子的に公開しているリポジトリ。資料は世界中から取寄可。
- ・ 文献収集しつつどれが正しいか精査し、その成果を発表して出版するという研究スタイル。
- ・ 本に何でも書いてあるかという、そうではない。
- ・ 様々な電子的資料を KULINE 等でどこでも閲覧でき便利だが、どれを選ぶかは個人の能力次第。トライ&エラーでスキルを向上させなければ、単にデータがあるだけになってしまう。
- ・ e-learning では論理の展開過程等が欠落する場合があります、同時に反転授業等を突きつけなければならない。大学はそこに足りないものを補う場なので、対話し議論することが重要。
- ・ 研究をサポートする側は、サポートを受けた人が喜んだり、一歩前に進む結果を得られたりした時に一歩成長する。お互い成長するには、無理と言わずにやってみることが重要。

論文の読み方、電子的資料と研究活動

- ・ 最近に関連論文をサジェストする機能があるが、皆が同じ方向に進むことが研究なのか。
- ・ 学生時代の教員の言葉「論文はできるだけ読むな。論証に必要なものだけに。不要なものを読み過ぎてしまうと、影響されて自分の考えを失ってしまう。」
- ・ “Paper”は論証を完成させたものだが、“Letter”は速報であり、結果としては未完。だが今の世界は速報で終わらせようとしている。未完か完成されたものかを見極める必要がある。
- ・ ナビゲーションの能力と情報収集の能力が必要。トライ&エラーしながら新しいアイデアを作ることが重要であり、狭い世界での自己満足に陥ってはいけない。

現在の研究の傾向

- ・ 前の研究は正しいとされており、前の研究を僅かに広げた/深めた研究は間違いとは言えない、という傾向にあるが、その延長線上にパラダイムシフトはない。

資料の電子化に伴う課題

- ・ 電子化による情報の携帯性・二次配布の容易性・データベース化の簡便性などは便利だが、「本当のものは何か？」が忘れられている。
- ・ 流通によるオリジナリティの喪失。他人のオリジナリティの問題点を知り、矛盾等を知ることによって自らのオリジナリティを構築できるが、構築には訓練が必要。
- ・ Letter(速報)など論証できていないため、研究テーマが短命化し、すぐに終わってしまう。
- ・ 有害情報の流布、科学的基礎知識情報の寡占化との戦いなどの問題もある。

Open Source と Open Access

- ・ なるべく Open にしようという考え方がある。Linux 等は Open Source で作成された OS だが、Wikipedia 同様、皆で構築し、コントロール。Open で進める方が速いことが証明された。
- ・ 学術情報も Open になるほど速く進む。インターネットで、学術情報を無料で閲覧可能にするのが Open Access。Open にして、少ないエネルギーで皆ができるようにすることが重要。
- ・ 2013 年 4 月から博士論文の電子公開義務化。大学での研究は公共の財産という認識。学生 1 人 1 人の育成には多くの費用が投じられており、それによって得られた知識や結果は皆に還元すべき、という発想は根本的に必要。

arXiv その他の論文公開

- ・ Web で公開され検証された研究もある。この場合 Open が先であり、検証の確定版が論文。

各課程での訓練

- ・ 卒業論文やゼミでは、先行研究の検証が一つの流れ。修士論文は、アプローチ手法の選定。博士論文は課題を自ら選定する訓練。フェーズが異なるため、都度訓練を受ける必要がある。

京大生ならこうあってほしい

- ・ 桑原道義名誉教授の言葉「ほかの人がみんな前を向いて走っていたら、自分は違う方向に走りなさい。みんながその方向に道があることに気が付いたとき、あなたはすでにほかの人より進んでいる。」「みんながついてきたら 90 度曲がりなさい。」

さいごに

- ・ 検証が必要であり真贋を意識して図書や情報を扱うことが重要。図書館を利用してほしい。

*** その他 連絡事項 ***

- ・ 第 1 回アンケートの記入・提出のお願い。
- ・ 期限内に履修登録を行うこと。
- ・ 授業日程に使用教室が記載されているが、回によって教室が変わるため要注意。
- ・ 演習では ECD-ID が必要となる。
- ・ 授業用 Web ページと Twitter (@ku_tansaku) についてアナウンス。

(記録：梶谷 春佳)